

- これまで行ってきた被災農業者への支援等によって、引き続き営農再開を推進。
- 条件不利地については地元農業者だけでは限界があることから、営農再開に向けて、外部の参入も念頭に、基盤整備による農地条件の改善、農地集積が必須。
- このため、農地の利用集積を促進する特例制度を創設し、地域において一体的に権利設定できる仕組みを導入するとともに、6次化施設の建設に向けた農地転用等の特例制度を措置（R3年4月）。

改正内容

(1) 農地の利用集積の促進（新たな担い手への対策）

住民の帰還意向が乏しく、農業の再開が困難と認められる地域において、**福島県が農用地利用集積等促進計画を作成・公告し、所有者の同意を得た上で、農地バンクを活用して、所有者不明農地も含めて地域において一体的に権利設定できる仕組みを導入。**

(2) 6次化施設の促進

(1) の計画に係る農地に6次化施設を建設する場合について、

- ① 農用地区域からの除外を可能とする農業振興地域の整備に関する法律の特例、
- ② 許可を受けることなく、優良農地（ほ場整備済みの農地など）の転用を可能とする農地法の特例を措置

(3) 農業委員会の事務の市町村への移管

市町村と農業委員会が合意した上で、農業委員会の事務を市町村に移管できるよう措置。

農用地利用集積等促進事業（農地の利用集積の促進）

農業の担い手や市町村の職員が不足する避難解除等区域等において、農地の利用集積を一層促進し、担い手を呼び込む観点から、

- 福島県が、農地集積の計画（県計画）を作成・公告、
- 農地バンクを活用して所有者不明農地も含め、農地の賃借権の設定等を行うことができることとする制度を新設。

活用実績・活用事例

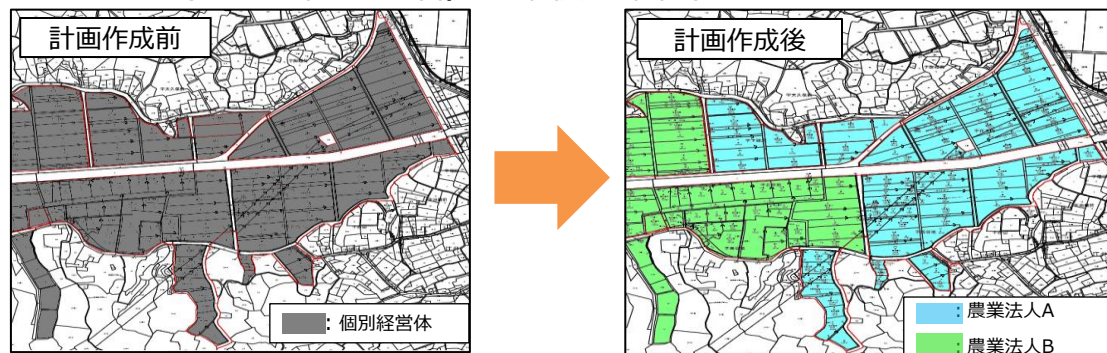
【活用実績】

県計画の作成状況

→ 5市町村、29計画、568ha

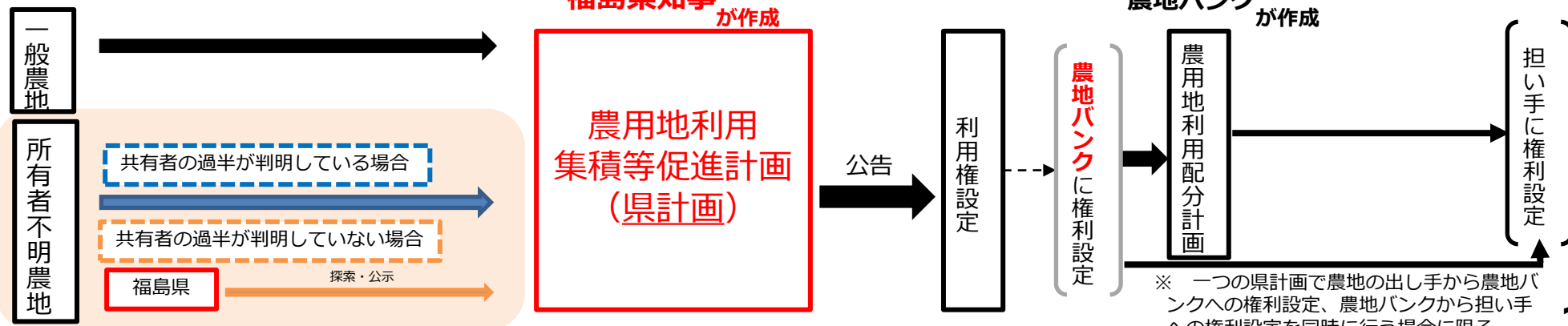
- ※ 5市町村：南相馬市、広野町、川内村、川俣町、田村市
- ※ 令和4年9月末時点

つるがい
【南相馬市鶴谷地区の事例】
・大規模な農業法人（2法人）が、県計画により地域内の農地面積81.8ha（農地所有者70名）を集積・集約化



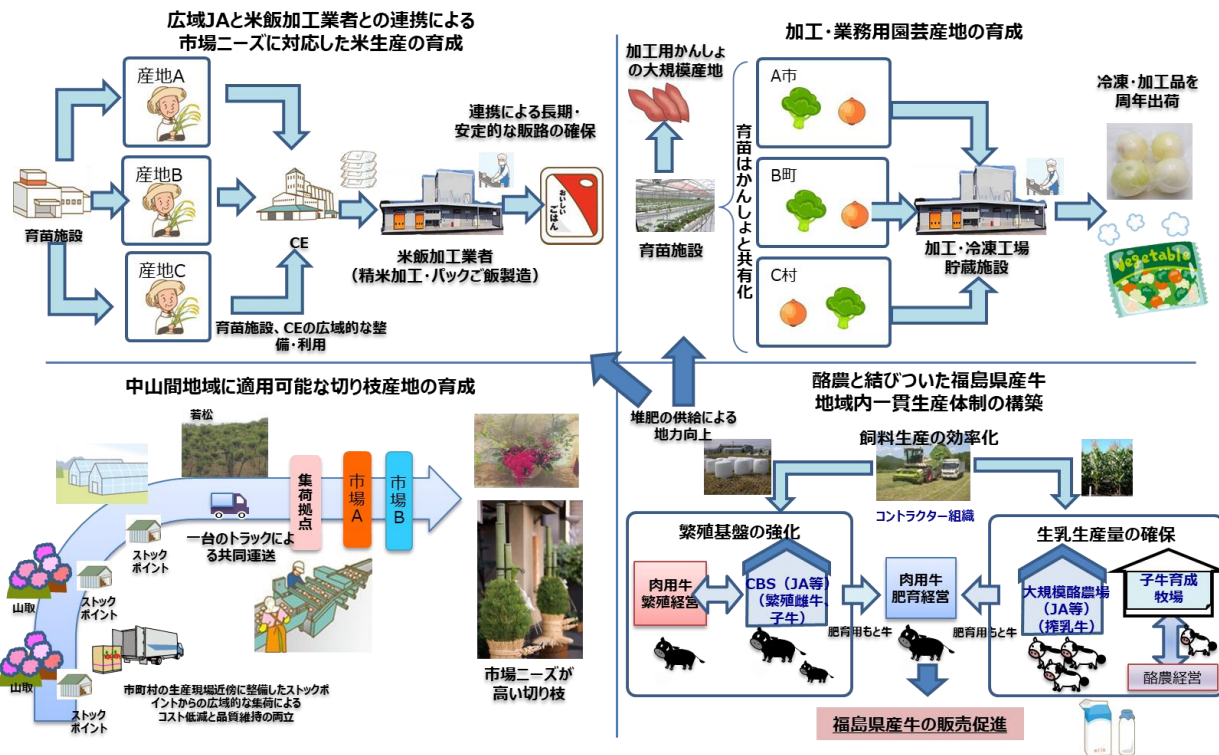
※ 平成28年7月に避難指示解除

制度概要



生産と加工等が一体となった高付加価値生産を展開する産地の創出

- 被災12市町村の営農再開の加速化に向け、地域外からの参入も含め農業者の再開意欲を高めていくためには、生産すれば売れる環境を形成し、将来に向けて被災地域の農業が産業として発展する姿を提示していくことが不可欠。
- このため、令和3年度より、福島県高付加価値産地展開支援事業を創設し、国産需要の高い加工・業務用野菜等について、市町村を越えて広域的に生産・加工等が一体となって付加価値を高めていく産地の創出に向けて、産地の拠点となる施設整備等を支援。
- 支援にあたっては、農業者団体や原子力被災12市町村等で構成する「福島県高付加価値産地協議会」を令和3年8月に設立し、産地の創出に向けた具体的な行動計画を策定・公表。
- 令和4年7月、かんしょの産地化に向けた高品質苗の供給施設が完成。来年度以降、生産者への苗供給を開始予定。
- 現地に進出希望がある加工業者も加わり、パックご飯などの加工施設等の整備や、施設に供給する農産物の産地づくりに向けた取組に着手。



完成したかんしょの高品質苗の供給施設 (楡葉町)

福島イノベーション・コースト構想の実現に向けた開発・実証研究の推進

MAFF

福島イノベーション・コースト構想に基づき、福島県浜通り地域の農林水産業再生のため、新たに現場が直面している課題について、研究開発・実証研究及び成果の社会実装を推進。

研究開発（4課題）

【農業分野】



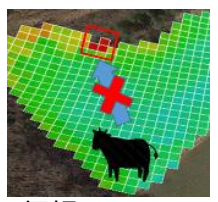
水路管理の現状

・管理が難しくなっている農業用水路の維持に必要な泥上げ等の省力化ロボットを開発。
(富岡町、飯舘村、浪江町)



可変施肥

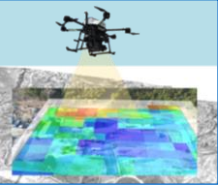
・肥沃度マップと可変施肥による除染後土壌の省力的な地力回復技術を開発。
(富岡町、飯舘村ほか)



仮想フェンス

・携帯電波の届かない地域でも利用できる、放射性物質高濃度エリアへの牛の接近防止や牧草等摂食制限を可能とするシステムを開発。
(葛尾村、飯舘村ほか)

【林業分野】



放射線量マップ

・3Dスキャナや線量計を搭載したドローンと深層学習を用いて森林資源情報等を効果的に把握するシステムを開発。
(川内村、広野町ほか)

現地実証研究（5課題）

【農業分野】



小水量除草剤散布

・生産環境の「見える化」技術により、地力回復技術、鳥獣害・雑草管理技術、カリ施肥適正化技術を確立。
(大熊町、双葉町、富岡町、葛尾村、田村市ほか)



圃場均平作業技術

・大規模水田輪作体系で熟練度にかかわらず、高品位生産を可能とする、栽培管理技術やデータ活用技術を確立。
(南相馬市ほか)



高加工適性小麦

・環境制御技術や搬送ロボットを活用した施設きゅうりや、高加工適性小麦の栽培体系を実証。
(南相馬市ほか)

【水産業分野】



電子操業日誌

・ICTを活用した漁況予測、資源状況、市況情報等を提供する漁業者支援システムをリアルタイム化、沿岸漁業や内水面漁業に対応。
(南相馬市、浪江町ほか)

社会実装を促進

【農業分野】（例）



AI肉質診断

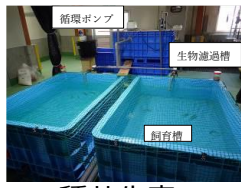
・エコー画像と枝肉画像のAI解析により、生育途中で肉質を推定する技術を普及。
(川内村、南相馬市、檜葉町、田村市ほか)



トルコギキョウ

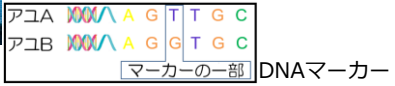
・トルコギキョウを核とした花きの周年生産技術を普及。
(双葉地域ほか)

【水産業分野】（例）



種苗生産

・耐病性等優良な形質をもつアユ種苗を選抜する技術を普及。
(相馬地域、いわき地域ほか)



タグ付きホシガレイ稚魚



ホシガレイの生態把握

・ICT活用によるホシガレイの最適な種苗放流手法の確立及び、放射性物質の影響把握による放流種苗の生育場の安全性評価手法を開発・実証。
(いわき市、相馬市ほか)

注：（ ）の市町村は実証圃等の設置場所